

開 会 挨拶

「第28回職業リハビリテーション研究・実践発表会」の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。

当研究・実践発表会は、職業リハビリテーションに関する調査研究や実践活動から得られた多くの成果を発表いただく機会を設けるとともに、ご参加いただいた方々の意見交換、経験交流を通じて、研究、実践の成果の普及に努めるために、平成5年から毎年開催し、近年は1,000人を超える方々の参加を得てきたところです。

今回の開催につきましては、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、参加者皆様の安全と安心を確保しつつ研究、実践の普及を行うため、障害者職業総合センターホームページにおいて広く発信する開催方式といたしました。

具体的には、特別講演とパネルディスカッションの動画を掲載するとともに、口頭発表やポスター発表の資料をホームページに掲載しております。

現下の感染症の拡大を機に、日常生活、働き方の変化が急速に進む一方で、雇用調整の可能性があると考えている企業が10万社を超えているという報告もあり、障害のある方の就職や安定した職業生活の維持について先行きは不透明な状況にあります。

今回の研究・実践発表会では、企業の障害者雇用による社内の意識変革や経営の持続可能性の実現につなげる取組、社員であるジョブコーチの活躍による雇用安定の実践、デジタル技術を活用した就業環境の整備等様々な工夫により、障害のある方が戦力として活躍し生産性の向上に結び付いている事例を紹介しながら、特別講演やパネルディスカッションによる議論を行っていただきます。

このような厳しい状況下にあるからこそ、企業として障害者雇用にどのように取り組み、また、支援機関としてどのように支援を行うかを再考いただく機会として今回の研究・実践発表会をご活用いただきたくお願い申し上げます。

また、今回開催方式を変更したことにより、これまで研究・実践発表会の会場にお越しいただけなかった方々にも地域を越えて成果をお届けすることができると考えております。

ホームページに掲載した内容を地域や有志による活動など様々な場で活用いただくことにより、地域における意見交換、経験交流の取組が進む一助となることを願っております。

最後に、感染拡大が危惧される中、今回の研究・実践発表会の開催にご尽力を賜りました特別講演の講師及びパネリストの皆様、研究・実践発表の資料掲載にご協力いただきました100名を超える発表者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和2年11月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
理事長 和田 慶宏